

編集・発行 大学美術教育学会
理 事 長 新聞伸也（東海大学）
編集担当 高林未央（総務局事務）
広 報 室 E-mail: daibibumon@uaesj.com（総務局専用）
事 務 支 局 〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入る西大路町
146 番地 中西印刷株式会社 学会部内
TEL: 075-415-3661/FAX: 075-415-3662
E-mail: uaesj@nacos.com

ご挨拶 -22 年目にして思うこと

大学美術教育学会副理事長 松島さくら子(宇都宮大学)



思えば令和 2 年（2020）、当学会及び部門の宇都宮大会の開催年でした。コロナ禍に見舞われた未曾有の年でもありました。年度当初、対面での開催に向け準備をしておりましたが、ご存じのとおり私たちの生活、大学の授業も一変しました。しかし理事・総務局の先生方の粘り強いご支援のもと、宇都宮大学の教員とともに、初のオンラインでの大会開催となりました。

その後、令和 4 年度より大学美術教育学会副理事長を仰せつかりました。それまで私自身が学会へ関わる機会は決して多くはなく、私のような者が学会副理事長とは、誠に僭越ではありますが、宇都宮大会での感謝の念もあり、微力ながらお役に立てばと考えております。他の役員の先生方のお力をお借りしながら、何とか 2 年の任期の職責を果たしたいと思えます。

私ごとですが、宇都宮大学教育学部（現 共同教育学部）に着任してから本年で 22 年目となります。大学に着任した当初より、徐々に教員数が削減され美術教育が置かれている現状と存続の危機を感じつつ、あれよという間に年月が経ってしまいました。

私の専門は工芸で、漆芸を主としております。授業では工芸の実技と理論と工芸科指導法を担当しています。高等学校での工芸の授業が少なくなり久しく、工芸教育の存続の危惧をも切実に感じ

ております。私たちが一生涯を通し衣・食・住を確保することは必須であり、さらにより豊かな人生をおくるためには、やはり歴史と風土に根ざした手仕事と工芸、そして美術を通した教育は大事な人間形成につながります。しかし、コロナ禍オンラインでの授業や活動、バーチャルな体験や AI による知識の習得も広がり、その恩恵を受けつつも、未だ人と人が距離をとり、実体験の少なさと身体感覚の鈍化が進んでいるのではと感じざるを得ません。

改めて、本学会会則に目を通しますと、「本学会の目的は、美術・芸術の教育に携わる者すべてが交流・連携し、理論研究と実践研究の質を高め、日本社会の中で美術・芸術教育の発展に努めることにある」とあります。学会は、美術教育に携わる各会員の専門分野の研究成果を発表する場であり、同時に変化の大きい今日の教員養成大学及び学校現場における美術教育の課題を共有し、美術・芸術教育が果たす役割と新たな可能性を追求し続けていくことに他なりません。

今年度の香川大会は、現地参集による対面の開催となります。香川大学の皆様や総務局の皆様、発表に向け準備されている学会員の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、対面ならではの対話と交流が広がる大会となりますよう祈っております。

学会誌委員長を拝命して

大学美術教育学会副理事長 小池 研二（横浜国立大学）



この度学会誌委員長を仰せつかりました、横浜国立大学の小池研二と申します。前委員長の山田芳明先生は、コロナ禍という大変な状況の中で多くのお仕事を丁寧にされており、その業務を引き継ぐことについて重責を感じております。副委員長の西村德行先生、蜂谷昌之先生を始め委員の先生方、学会の皆様のお力をお借りして役目を果たしていきたいと思っております。

この挨拶文を書くに当たり過去の会報を読み返してみました。そこには、国立大学法人におけるミッションの再定義、大学院教育学研究科から教職大学院への移行、大学教員数の減少、教員免許更新制等多様な問題に対して多くの先生方が取り組んできたことを改めて知ると共に、これらの問題は関連性を持ちながら、現在まで継続していると思えました。学会誌に関することについては、昨年度も論文査読をお願いする先生の絶対数が足りないことを実感しました。何名かの先生には、ご無理を承知で多くの論文を担当していただきました。またご自身の専門から距離のある分野の査読もお願いをしました。この場を借りてお礼を申し上げます。査読者数の不足の問題は、過去の会報の中にも触れられており、決して急に起こったことではありません。しかし各大学で各専門分野の教員を十分に配置できないことが現実になっている中で、査読者の選定はより一層困難になっています。学会員が減少すれば投稿数が減るということは当然考えられるでしょう。しかしそれ以上にピアレビューという形で行われている査読制度によって維持してきた論文の質保証という問題については、危機感を持って対処していかなければなりません。本学会は大学教員が中心ではありますが、さまざまな立場の多くの学会員の皆様の、より一層の協力をお願いする次第です。

3月にドイツの学校や博物館美術館での教育について調査をする機会を得ました。ケルン市にある民族博物館では、文化財の返還をテーマにした展覧会を行っており、担当者から話を聞くことができました。そこにはアフリカにあったベニン王国の美術品が展示されていました。担当者の話では、文化財の返還については過去にも問題になってはいたのですが、2018年に出された報告書（サル・サヴォア報告書）により、注目されたとのことでした。そしてこの博物館でも調印が行われ、博物館にある該当美術品の所有権をドイツからナイジェリアに変更すること、ただし10年間は展示して良いことが決まったそうです。展示するという意味で表面上の変化はないかもしれないが、歴史的な点では大きな意味のある調印であったと話していました。

話は変わりますが、巷では現在 Chat GPT 等のいわゆる生成 AI についての話題が日々取り上げられます。政府や大学、学校現場でもこれらの扱いについて議論している所でしょう。現時点での報道を見ると問題点も多く今後の経緯を見ていく必要はありますが、いずれにしろ新たなツールとして有効に活用されていくと思われます。学術論文への影響についても考える必要があるかもしれません。そこで大切になるのが倫理性、公正性ということではないでしょうか。さきほどの文化財の返還については背景に政治的な問題があるのも事実です。しかし今回の調印によって、作品を所有して展示することについての倫理的な問題を明確にした点は大きな意味があったと私も思います。今後の世界では倫理的な視点から物事を捉えることが多くの場面でより一層重要になってくるでしょう。美術教育に携わる一人として私自身も襟を正して仕事をしなければならないと考えています。

令和 4(2022) 年度 大学美術教育学会 役員・各種委員会委員一覧

■理事長 新関 伸也* (滋賀大学)

■副理事長 松島 さくら子* (宇都宮大学)

山田 芳明* (鳴門教育大学)

■顧問 八重樫 良二* (北海道教育大学)

■総務局委員

総務局長 村田 透* (滋賀大学)

副総務局長 松尾 大介* (上越教育大学)

福井 一真* (愛媛大学)

総務局員 芳賀 正之 (静岡大学)

前芝 武史 (兵庫教育大学)

吉川 暢子 (香川大学)

藤井 康子 (大分大学)

手塚 千尋 (明治学院大学)

総務局事務 高林未央

■大会運営委員

幸 秀樹 (宮崎大学)

吉川 暢子 (香川大学)

■監 事 新野 貴則 (山梨大学)

河西 栄二 (岐阜大学)

■地区全国委員

I 〔北海道〕

佐々木 けいし (北海道教育大学岩見沢校)

李 知恩 (北海道教育大学札幌校)

〔東北〕

虎尾 裕 (宮城教育大学)

渡邊 晃一 (福島大学)

II 〔関東〕

向野 康江 (茨城大学)

本田 悟郎 (宇都宮大学)

III 〔北 陸〕

岡田 匡史 (信州大学)

柳沼 宏寿 (新潟大学)

〔東 海〕

杉林 英彦 (愛知教育大学)

野村 幸弘 (岐阜大学)

IV 〔近 畿〕

永沼 理善 (和歌山大学)

谷村 さくら (大阪教育大学)

〔四 国〕

福井 一真 (愛媛大学)

山田 芳明 (鳴門教育大学)

V 〔中 国〕

藤田 英樹 (島根大学)

吉田 貴富 (山口大学)

〔九 州〕

栗山 裕至 (佐賀大学)

中川 泰 (長崎大学)

■私立大学全国理事

浅野 卓司 (桜花学園大学)

大成 哲雄 (聖徳大学)

■学会誌委員会

委員長 山田 芳明 (鳴門教育大学)

副委員長 小池 研二 (横浜国立大学)

副委員長 西村 徳行 (東京学芸大学)

委員 〔R3-4 年度委員 7 名〕

小林 俊介 (山形大学)

佐原 理 (徳島大学)

高橋 智子 (静岡大学)

武田 信吾 (関西学院大学)

手塚 千尋 (明治学院大学)

蜂谷 昌之 (広島大学)

藤田 英樹 (島根大学)

委員 〔R4-5 年度委員 6 名〕

内田 裕子 (埼玉大学)

喜多村 徹雄 (群馬大学)

勅使河原 君江 (神戸大学)

新関 伸也 (滋賀大学)

藤井 康子 (大分大学)

古瀬 政弘 (東京学芸大学)

■将来構想委員会

委員長 新関 伸也 (滋賀大学)

副委員長 佐藤 哲夫 (新潟大学)

委員 新井 浩 (福島大学)

相田 隆司 (東京学芸大学)

松島 さくら子 (宇都宮大学)

山田 芳明 (鳴門教育大学)

柳沼 宏寿 (新潟大学)

小林 俊介 (山形大学)

新野 貴則 (山梨大学)

村田 透 (滋賀大学)

■学会誌委員会

1. 『美術教育学研究』第 55 号について

本年度の投稿本数は 71 編（昨年度 77 編）、事前登録数は 106 件（昨年度は 106 件）であった。

11 月 6 日に横浜国立大学みなとみらいキャンパスで第 2 回学会誌委員会を開催した。会議において、第 1 回査読結果について確認後、追加査読対象となった原稿を委員で査読し、その結果について委員全員で審議を行い、掲載・条件付き掲載・不掲載を決定した。

最終結果：掲載 42 編（掲載率 59.1%）※昨年度 50 編・掲載率 64.9%

内訳：掲載 5 編、条件付掲載 39 編（第 1 回査読条件付掲載 32 編・追加査読による条件付掲載 7 編）、不掲載 27 編（第 1 回査読不掲載 9 編・追加査読による不掲載 18 編）

2. 学会誌委員会等の開催について

(1) 中西印刷との打ち合わせ(令和 4 年 5 月 31 日、オンライン)

諸調整事項を確認。理事会メール審議

(2) 第 1 回学会誌委員会（令和 2 年 9 月 18 日、オンライン）

学会誌委員顔合わせ、運営日程等確認

(3) 第 1 回幹事会（令和 2 年 9 月 16・19 日、オンライン）

(4) 第 2 回幹事会（令和 2 年 11 月 6 日、横浜国立大学みなとみらいキャンパス）

(5) 第 2 回学会誌委員会（令和 2 年 11 月 6 日、横浜国立大学みなとみらいキャンパス）

第 1 回査読結果の確認、掲載・条件付き掲載・不掲載の決定

(6) その他 不定時幹事会（メール審議等）、正副委員長と中西印刷との調整等

※本年度は新型コロナウイルス全国的な感染状況を睨みながら、第 2 回学会誌委員会を 3 年振りに対面で開催を行った。

3. 今年度総括と今後の検討事項

(1) 編集係（中西印刷）の業務進行は例年通りスムーズであり、それによって学会誌委員会の進行もスムーズであった。

(2) 55 号の掲載論文は 54 号より 8 編少ない結果となった。事前の登録数は昨年度と同数であったが、登校本数は 6 編少なく、掲載率も 59.1% と昨年度より低いものとなった。以前は 70% 前後あり、近年でも 60% 台であったことを鑑みると、掲載率が低下傾向にあることがわかる。

(3) 日本美術教育学会、美術科教育学会と本学会では、相互に投稿論文の題目及び投稿者の情報を交換し、二重投稿等の投稿倫理にかかる問題が生じていないかの確認を行っている。複数の学会に投稿される場合には、疑義が生じないように十分に配慮頂くように今後も更に周知していく予定である。

4. その他

委員会の議を経て、次年度の「第 56 号」より以下の点について見直しを行うこととなった。

○ 事前申し込み制度の廃止

毎年事前申し込みを行って頂いていたのだが、編集作業等のスケジュール上、特段の必要性がないことから、事前申し込み制を廃止することとなった。このことについては、次年度の 56 号の投稿案内の際に改めて全会員に案内する予定である。

○ 学会誌細目の変更

引用文献等の取り扱い等を他学会に合わせて一部修正することとした。投稿者にとって負担が軽減されるよう今後も先の三学会で、細目等の共通化の方向で検討を進めていく予定である。

○ 英文要旨の提出時期の見直し

現在投稿時に英文要旨の提出を求めているが、査読を経て掲載決定後にネイティブチェックを受けた英文要旨の提出求めるという方向で、中西印刷とも確認しながら検討を進めている。

令和4(2022)年度 理事会報告

令和4(2022)年度 第1回 大学美術教育 学会理事会 議事録

日時：令和4年9月16日(金)

16:00～17:00

場所：オンライン会議 (zoom)

宮崎大学教育学部棟(1階)第1会議室・
木花キャンパス

出席者：新関・代表・理事長、新井・副代表、相
田・副代表、山田・副理事長、松島・副理
事長、八重樫・顧問、村田・総務局長、松尾・
副総務局長、総務局員(藤井・手塚・芳賀・
前芝)、高林・総務局事務、幸・大会運営
委員、河西・監事、地区全国委員(李、佐々木、
向野、本田、岡田、柳沼、杉林、永沼、谷
村、藤田、吉田、栗山、中川)、西村・学
校美術教育支援委員会委員長、私立大学全
国理事(鳥越、浅野)

進行：村田

書記：高林

I あいさつ

開会の辞：議事に先立ち、松島・副理事長より
開会の辞がなされた。

理事長挨拶：議事に先立ち、新関・理事長より挨
拶がなされた。

II 報告事項

1. 令和4年度 会員登録状況

福井・副総務局長より令和4年度 学会会員登
録状況(696名)の報告がなされた。

2. 令和4年度 役員・各種委員会委員

村田・総務局長より資料「令和4年度 大学美
術教育学会 役員・各種委員会委員一覧」に基づき、
報告がなされた。

3. 令和3年度 事業報告

村田・総務局長より資料「令和3年度 大学美
術教育学会 事業報告」に基づき、報告がなされた。

4. 令和4年度 学会員名簿

福井・副総務局長より、学会員名簿について
説明がなされた。村田・総務局長より、各会員に
会員登録情報の変更がある場合、情報を更新する
よう依頼がなされた。

5. 学会各種委員会

(1) 学会誌委員会

山田・学会誌委員会委員長より、今年の学会
誌投稿状況について資料をもとに報告がなされ
た。また、事前申し込みについて、来年度から廃
止とする報告、学会誌投稿細目についての改定が
入る旨の報告がなされた。

6. 令和4年度宮崎大会の日程及び内容【共通】

幸・大会運営委員より、宮崎大会の日程及び
内容について説明がなされた。

III 協議事項

1 令和3年度決算、令和4年度 事業計画(案)・ 予算(案)

(1) 令和3年度 決算

芳賀・総務局員より、資料「令和3年度 大学
美術教育学会 決算」に基づき説明がなされ、持
続可能な運営を目指して会計業務を中西印刷に委
託することの説明がなされ、承認された。

(2) 令和3年度 監査

河西・監事より、資料「令和3年度 大学美術
教育学会 監査報告書」に基づき説明がなされ、
承認された。

(3) 令和4年度事業計画(案)

村田・総務局長より、資料「令和4年度 学
美術教育学会 事業計画」に基づき説明がなされ、

承認された。

(4) 令和4年度予算(案)

芳賀・総務局員より、資料「令和4年度 大学美術教育学会 予算案」に基づき説明がなされ、承認された。(資料の一カ所に年度の間違いが見つかり、後日、修正した報告書を提出して頂くこととなった。)

2 次年度以降の全国大会開催大学

村田・総務局長より、資料「R5以降_全国大会開催校一覧_20220728」に基づき次年度以降の全国大会開催大学について、2023年度は香川大学、2024年度は金沢大学になる旨の説明がなされた。

3 総務局の運営体制と業務

(1) 総務局の運営体制

芳賀・総務局員より、総務局長に集約していた業務の分担を行うことの説明がなされ、了承された。

(2) 中西印刷への業務委託

芳賀・総務局員より、会計業務の委託について中西印刷への業務委託を進めること、監査の時期を次年度の大会開催前から当該年度末に変更すること、今年度の会計は大会後締め切る旨の説明がなされた。

(3) 総務局の業務

①学会・部門の発送物について

村田・総務局長より学会・部門の発送物について、既会員に関しては通常通り紙媒体で郵送し、年度途中の新規会員についてはPDFをE-メールにて送付する旨の説明がなされ、了承された。

②学会誌のバックナンバーについて

村田・総務局長より学会誌のバックナンバー管理について、これまでの総務局による紙媒体の管理を見直し、PDFを学会のサイトで公開

する旨(当該年度の学会誌発刊の1年後)の説明がなされ、了承された。

③全国大会の冊子作成について

村田・総務局長より全国大会の冊子作成について、コロナ禍前の全国大会の運営についてそのままでは開催大学や総務局の負担が大きいため、来年度からは対面開催の場合であってもコロナ禍で培ったやり方を継続・発展させる提案(大会前・大会期間は大会サイトにPDFの大会冊子を掲載、大会後に全会員へ紙媒体の大会冊子を郵送)がなされ、承認された。

4 令和4年度 学会会報

吉川・総務局員の代理として村田・総務局長より配付資料をもとに令和4年度 学会会報について説明がなされ、承認された。

5 造形芸術教育協議会(3学会連携)について

(1) 第12回造形芸術教育協議会 ※幹事学会：日本美術教育学会

新関・理事長より、10月16日日曜日13時～14時と、3月19日金曜日13時～14時に協議会が開催され、連携の議題について議論されることについて説明がなされ、承認された。

(2) 将来構想委員会の設置

新関・理事長より、将来構想委員会の設置について説明がなされ、承認された。現状の課題を把握し、三学会連携や部門と学会の関係について協議する旨の説明がなされた。今年度中にアンケートをとり、来年度には大きな方針を決めること、具体的にはオンライン会議を開催する旨の説明がなされた。

V あいさつ

閉会の辞：山田・副理事長より閉会の挨拶がなされた。

令和 4（2022）年度 第 2 回 大学美術教育 学会理事会 議事録

日時：令和 5 年 3 月 14 日（火）

13：00 ～ 15：00

オンライン開催（Zoom 会議）

出席者：

新関・代表・理事長、新井・副代表、相田・副代表、
松島・副理事長、八重樫・顧問、村田・総務局長、
松尾・副総務局長、福井・副総務局長、総務局員
（芳賀、吉川）、高林・総務局事務、大会運営委員
（幸、吉川）、新野・監事、地区全国委員（佐々木、
李、虎尾、渡邊、向野、本田、丹治、杉林、永沼、
谷村、吉田、栗山、中川）、西村・学校美術教育
支援委員会委員長、私立大学全国理事（浅野、大成）
進行：村田透（総務局長）

書記：高林未央（総務局事務）

I あいさつ

開会の辞：

議事に先立ち、新井・副代表より開会の辞が
なされた。

代表・理事長挨拶：

議事に先立ち、新関代表・理事長より挨拶が
なされた。

オンライン会議出席者自己紹介：

議事に先立ち、オンライン参加者より自己紹
介がなされた。

II 報告事項

1. 総務局から

※別紙：II -1-1【議事録（確定）】R4 第一回部門
役員会・学会理事会（9.16）議事録 20221004

※別紙：II -1-2【議事録（確定）】R4 宮崎大会 _
部門・学会総会（9.17）20221005

※別紙：II -1-3【議事録（確定）】R4(2022) 第
3 回運営委員会、第 4 回総務局会（2023.3.1）

2023.3.10

※別紙：II -1-4 総務局からの報告事項 2023.3.14

※別紙：II -1-5 R4_ 役員 _ 各種委員会 20230228
（※赤文字の氏名：任期 R4 年まで）

・村田・総務局長より、配布資料をもとに、令和
4 年度第一回部門役員会・学会理事会（9.16）
議事録と令和 4 年度宮崎大会 _ 部門・学会総会
議事録の説明がなされた。

・村田・総務局長より、配布資料をもとに、令和
4 年度第 3 回運営委員会、第 4 回総務局会につ
いての説明がなされた。

・幸・大会運営委員より、令和 4（2022）年度全
国美術部門協議会・第 61 回大学美術教育学会
「宮崎大会」報告がなされ、宮崎大会の会計に
ついて学会から援助があったことへの御礼と会
計監査が異論なく完了したことへの報告がなさ
れた。

・芳賀・総務局員より、令和 5 年度から部門・学
会の会計業務を中西印刷に委託すること、来年
度の香川大会においても 3 年ぶりの現地での対
面開催となるので、3 月に入って中西印刷と協
議を重ねていることの報告がなされた。

・村田・総務局長から、地区全国委員（部門）と
地区全国理事（学会）の兼任について、部門と
学会の両会員であることが前提あるため、地区
全国委員と地区全国理事の選出は留意して欲し
い旨の説明がなされた。

・村田・総務局長から、論文掲載者より学会誌掲
載負担金の請求書と領収書の分割発行について
要望があったが、学会誌業務の複雑化となるた
め対応しない結論に達したことの報告がなされ
た。

・村田・総務局長より、配布資料をもとに総務局
から報告事項として、香川大会での総会の議長
団（「Ⅴ：中国・九州地区」から 1 名、「Ⅲ：北
陸・東海地区」から 1 名）の選出、部門・学会

の会員情報の確認と更新、令和5年度の新規役員・各種委員会委員の選出、令和5年度の全国美術部門会員の入退会報告お願いについて説明がなされた。

2. 第62回大学美術教育学会 香川大会について

吉川・大会運営委員より、現段階の方向性について報告がなされた。香川大会は現地開催の対面形式で行う、大会テーマ（仮）は「美術教育の未来を考える」、大会シンポジウム（仮）は「AI×美術教育 美術教育の知と可能性」でありアフアンタジアや認知科学などテーマとして検討している、四国地区の国立大学が協力して大会運営に携わる。新型コロナウイルスの感染対策状況が不確定であるため懇親会は行わないが、懇親会に代わる交流の時間を検討する旨の報告がなされた。

村田・総務局長より、香川大会のアナウンス・スケジュールについて、4月に大会テーマ・主旨・日程を学会HPに公開、6月中旬に大会案内を全会員に紙面で配布、9月上旬に学会HPに大会概要集のPDFを掲載することの説明がなされた。

福井・副総務局長より、研究発表の司会を四国地区にくわえて近畿地区にも協力をお願いしたいと発言があった。

3. 委員会報告

(1) 将来構想委員会

・美術科教育学会 叢書5『授業の現在』執筆者推薦について

※別紙：Ⅱ-3-1-1「美術教育学叢書5号執筆者推薦のお願い」

※別紙：Ⅱ-3-1-2「叢書サンプル4p説明NEW」

新関代表・理事長より、三学会連携事業の一環である美術科教育学会 叢書5『授業の現在』執筆者推薦について、美術科教育学会から大学美

術教育学会宛に執筆協力者の募集依頼があったことの報告がなされた。本件の窓口は将来構想委員（新関、新野）であり、現時点で10～15名の候補者の中から執筆協力者を検討している報告がなされた。

・令和4年度 第1回将来構想委員会（2023.1.27）

※別紙：Ⅱ-3-1-3「1回将来構想委員会（2023.1.27）議事録」

新関代表・理事長より、資料に基づき、令和4年度 第1回将来構想委員会（2023.1.27）の報告がなされた。検討事項は以下である。

1. 部門と学会との関係性や両者には役割があり、分離独立にはメリットとデメリットがある。現状では地区会と部門との関係もあり、早急に分離独立に至らないが、部門・学会、大会などの持続的な運営を考慮すると、部門の会員数の減少もあり、両者の関係や業務内容を精査・再考する必要がある。
2. 三学会の連携について 学会アンブレラ方式では、現在の三つの学会の特色を生かしつつ、連携・統一できる内容や業務がないか「新組織の連携機構」で模索・検討して、順次進めていく。学会アンブレラ方式の名称案として、「日本美術教育研究機構」を提案する。
3. 三学会誌の執筆細目などの共通化 3学会での学会誌の文献や注表記などの共通化には、賛同する。その形式については、本学会のAPA方式が、学内や国際的にも望ましい。ただし、要望はあるものの形式の決定については、「造形芸術教育協議会」の代表者協議に委ねる。

以上3点を造形芸術教育協議会（2023.3.11）において新関代表・理事長より提示した報告がなされた。

新井・副代表より、部門は地域との関係、学会は研究機関であったこと、全造連が教員の多忙

化により活動できなくなっていることを踏まえ、部門は地域との連携に大きくシフトしていく必要があるとの示唆がなされた。新関代表・理事長より、大学と地域との関わりの弱体化への懸念、地区会の意義の大きさ、本部門・学会が地域を大事にしていくアイデアが求められていることの指摘がなされた。新井・副代表より、それぞれの地域についての状況を地区会から提案していく必要性についての指摘がなされた。新関代表・理事長より全国の状況を把握していきたい旨の発言がなされた。

村田総務局長より、大学の専任教員数減少に伴い、令和5年度の香川大会では四国地区の国立大学で協力して運営いく方向性であると報告があった。

・令和4年度 大学造形教育連絡協議会 (2023.2.14)

※別紙：Ⅱ -3-1-4「令和4年度 大学造形教育連絡協議会 (2023.2.14) 議事録」

新関代表・理事長より令和5年2月14日(火)に開催した大学造形教育連絡協議会について報告がなされた。浅野・私立大学全国理事より、全美協と学会との協働においては中長期計画を立案する必要があるとの報告がなされた。大成・私立大学全国理事より、全美協の活動を本部門・学会の会員に周知するために全国大学造形美術教育教員養成協議会のホームページを参照して欲しい旨の発言がなされた。

村田・総務局長より本協議会からの提案について質問がなされ、新関代表・理事長より、大会の一会場を全美協にあてること、全美教より選出する総務局員2名は全美協で検討する旨の回答がなされた。

(2) 学校美術教育支援委員会 (大学造形教育連絡

協議会)

※別紙：Ⅱ -3-2-1「2022年度【要望書】全国美術部門 2022.12.19」

※別紙：Ⅱ -3-2-2「令和4(2022)年度版、中学校美術科教員実態調査の結果 2022.12.19 改」

西村・学校美術教育支援委員会委員長より、令和5年度の全国造形教育連盟の全国大会は関東ブロック(開催地：埼玉県川口市)で行う方向性であることの報告がなされた。

村田・総務局長より、令和5年度の学校美術教育支援委員会・委員(大会開催地の国立大学より2名)について質問がなされ、西村・学校美術教育支援委員会委員長より未定であるとの報告がなされた。

(3) 学会誌委員会

※別紙：Ⅱ -3-3「令和4年度学会誌委員会報告 2023.3.1」

山田・学会誌委員会委員長(代読：村田・総務局長)より、資料に基づいて、投稿本数は71編、事前登録数は106件、最終結果が掲載42編(掲載率59.1%)などの報告がなされた。次いで、投稿数と掲載数の低下傾向、二重投稿対策として三学会での連携、第56号から事前申込を廃止、三学会で学会誌投稿論文規程等の共通化の検討、論文提出時の英文要旨の提出を掲載決定後の提出へと変更する方向で中西印刷と検討中である旨の報告がなされた。

Ⅲ 協議事項

(1) 学生会議について

手塚・総務局員より、大会企画である学生会議の件について、2020年度と2021年度の実施に基づいて成果と今後の課題について説明がなされた。第一回学生会議から14年が経過し、コロナ禍の中での開催を経て、「学生の発表の機会創出

と教員のFD」のコンセプトが変容してきた。よって現在の「学生会議」を発展的に解消し、「若手研究者育成」というコンセプトを提案する。このコンセプトによる企画として、学部生のセッションの実施、学部生・院生向けに実践研究方法のレクチャーや研究論文の書き方のワークショップなどが考えられる。

村田・総務局長より、現在の「学生会議」の参加学生の様子について質問がなされた。手塚・総務局員より、「学生会議」は学生のみでは議論が深まらず発展しないという問題があるものの、学生が自由に話し合える場として意義があったとの回答がなされた。くわえて、村田・総務局長より、手塚・総務局員からの提案について日本美術教育学会の大会において実践研究や研究論文の執筆のレクチャーをしている報告がなされた。また、新野・監事から手塚・総務局員の提案である「学生会議」の発展的解消と、若手研究者育成の場をつくる提案について賛成の意が示された。

IV その他

(1)2008 年からの（V期）の全国大会開催の記録と予定

※別紙：IV -1「全国大会開催の記録と予定_20220728」

村田・総務局長より、資料にもとづき、次年度以降の開催大学について、令和5年度は香川大学、6年度は金沢大学、令和7年度は関東地区、令和8年度は北海道地区会である報告がなされた。続いて村田・総務局長より、金沢大会の大会運営委員の選出状況について丹治・地区全国理事（北陸地区より代理出席）へ質問がなされた。丹治・地区全国理事（北陸地区より代理出席）より、本委員は未定であるため、金沢大学の教員に選出を依頼する旨の回答がなされた。

V あいさつ

八重樫・顧問より、閉会の辞がなされた。

令和 4（2022）年度 総会報告

令和 4(2022) 年度 大学美術教育学会総会 議事録

日時：2022 年 9 月 17 日（土）

13：30～14：00

→台風の影響により、オンライン開催からメール
審議へ変更（審議期間 9 月 21 日～9 月 27 日）

司会進行：幸 秀樹（宮崎大学）

1. 挨拶

代表 新関 伸也（滋賀大学）

2. 議長団選出 総務局

3. 議 事

【報告事項】

(1) 令和 4 年度 役員・各種委員等

代表 新関 伸也（滋賀大学）※「大会冊子」p.8

(2) 令和 3 年度 事業

総務局長 村田 透（滋賀大学）※「大会冊子」p.9

(3) 令和 3 年度 決算

総務局 芳賀 正之（静岡大学）※別紙参照

(4) 令和 3 年度 監査

監事 新野 貴則（山梨大学）※別紙参照

河西 栄二（岐阜大学）

(5) 令和 5 年度 協議会の開催大学

大会運営委員 吉川 暢子（宮崎大学）※別紙参照

(6) その他

【協議事項】

(1) 令和 4 年度 事業計画（案）

総務局長 村田 透（滋賀大学）※「大会冊子」p.9

(2) 令和 4 年度 予算（案）

総務局 芳賀 正之（静岡大学）※別紙参照

(3) その他

4. 議長団解任

5. 閉会の辞

副代表 新井浩（福島大学）

日本教育大学協会全国美術部門および大 学美術教育学会の総会の結果について

日本教育大学協会全国美術部門会員各位

大学美術教育学会会員各位

平素は本部門・学会の運営にご協力いただき
ありがとうございます。

令和 4（2022）年度日本教育大学協会全国美
術部門協議会および第 61 回宮崎大会（2022 年
9 月 17、18 日）をオンライン開催としました。

台風の影響により、本部門と学会の総会につ
いて、メール審議（期間：9 月 21 日～9 月 27 日）
としました。

本部門と学会の総会における提案について、
会員の皆様からのご異議はありませんでした。

そのため総会における提案は、承認いただい
たものと判断いたします。

本件に関して、ご協力いただき、ありがとう
ございました。

2022（令和 4）年 10 月 5 日

日本教育大学協会全国美術部門代表

大学美術教育学会理事長

新関 伸也

令和3（2021）年度 大学美術教育学会 決算

■収入の部

(円)

	費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
年会費	会費	5,812,000	5,011,848	-800,152	8,000×636名 4,000×1機関
	未納分	0	536,152	536,152	
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,500,000	1,500,000	0	30,000×50件
繰越金	繰越金	6,244,741	6,244,741	0	
	合 計	13,286,020	13,292,741	6,721	

■支出の部

(円)

	費 目	予算額	決算額	増 減	備 考
補助金	研究大会運営補助金	50,000	50,000	0	山形大会補助金
	オンライン大会補助	800,000	970,870	170,870	オンライン開催等
	大会案内等	10,000	36,036	26,036	
印刷製本費	学会誌発行	2,000,000	2,292,958	292,958	美術教育学研究 No. 54（発送費込み）
	会報発行	200,000	180,673	-19,327	大学美術教育学会会報 No. 39（発送費込み）
	名簿発行	20,000	16,060	-3,940	
	大会冊子（抄録集・山形大会記録集）	—	893,260	893,260	オンライン開催のため 学会で負担
運営費	運営委員会・拡大総務局会	300,000	65,370	-234,630	旅費
	会場費	0	0	0	会場費
	各種委員会等	200,000	0	-200,000	学会誌委員会
	諸会議・打合せ	150,000	0	-150,000	
事務経費	通信費	150,000	205,617	55,617	会費請求、論文投稿等
	事務費	100,000	146,178	46,178	
	雑費	10,000	4,780	-5,220	
委託費	事務支局業務委託費	1,320,000	1,323,374	23,374	会員管理業務
	学会誌編集委託費	800,000	618,750	-181,250	編集業務
	大会受付業務委託費	500,000	0	-500,000	山形大会
	事務サポート費	60,000	300,000	240,000	HP 管理費、編集等含む
予備費	予備費	6,616,020	0	-6,616,020	
	合 計	13,286,020	6,923,253	-6,362,767	

◆収入の部－支出の部＝6,369,488（次年度へ繰越）

令和 4(2022) 年度 大学美術教育学会 予算案

■収入の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増 減	備 考
年会費	会費	5,011,848	5,572,000	560,152	8,000 円×696 名 (令和 4 年度会員) 4,000 円×1 機関
	未納分	536,152	0	-536,152	
掲載負担金	学会誌掲載負担金	1,500,000	1,500,000	0	30,000×50 件
繰越金	繰越金	6,244,741	6,369,488	132,747	
	合 計	13,292,741	13,441,488	148,747	

■支出の部

(円)

	費 目	前年度決算額	予算額	増 減	備 考
補助金	研究大会運営補助金	50,000	50,000	0	宮崎大会補助金
	オンライン大会補助	970,870	1,000,000	29,130	オンライン開催等
	大会案内等	36,036	100,000	63,964	大会案内
印刷製本費	学会誌発行	2,292,958	2,000,000	-292,958	美術教育学研究 No. 55 (発送費込み)
	会報発行	180,673	200,000	19,327	大学美術教育学会会報 No. 40 (発送費込み)
	名簿発行	16,060	20,000	3,940	
	大会冊子(抄録集・宮崎大会記録集)	893,260	900,000	6,740	オンライン開催のため 学会で負担
運営費	運営委員会・拡大総務局会	65,370	300,000	234,630	旅費
	会場費	0	100,000	100,000	会場費
	各種委員会等	0	200,000	200,000	学会誌委員会
	諸会議・打合せ	0	150,000	150,000	
事務経費	通信費	205,617	200,000	-5,617	会費請求、論文投稿等
	事務費	146,178	200,000	53,822	
	雑費	4,780	10,000	5,220	手数料
委託費	事務支局業務委託費	1,323,374	1,920,000	596,626	会員管理、会計業務
	学会誌編集委託費	618,750	800,000	181,250	編集業務
	大会受付業務委託費	0	0	0	
	事務サポート費	300,000	300,000	0	
予備費	予備費	0	4,991,488	—	
	合 計	6,923,253	13,441,488	6,518,235	

令和 3(2021) 年度 事業報告

6 月 13 日 (日)	第 1 回運営委員会、第 1 回総務局会 (オンライン会議)
6 月 21 日 (月)	学会誌「論文投稿案内」郵送
6 月 23 日 (水)	「山形大会オンライン開催案内」郵送
6 月 23 日 (水)	「学会会報 No.39」発行・郵送・HP 掲載
7 月 1 日 (木)	「山形大会案内(オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
8 月 5 日 (木)	学会誌・事前投稿登録締切
8 月 31 日 (火)	大学美術教育学会「山形大会」研究発表申込締切・発表概要原稿提出締切
9 月 9 日 (木)	「投稿論文」締切 (消印有効)
9 月 18 日 (土)	第 2 回運営委員会、総務局会 (オンライン会議)
9 月 17 日 (金)	令和 2 年度会計監査 (新野監事・原口監事)
9 月 24 日 (金)	大会前日諸会議：第 3 回総務局会、第 1 回大学美術教育学会理事会
9 月 25 日 (土) ～ 9 月 26 日 (日)	第 60 回大学美術教育学会「山形大会」 (オンライン開催)：学会開催式 (山形大学)、研究発表、講演会、学会総会、学会閉会式、大会開催大学引継ぎ (次期開催大学 - 宮崎大学)
11 月 30 日 (火)	投稿論文の掲載可否の決定 (投稿論文の最終提出は可否決定後 4 週間以内)
12 月 7 日 (火) (令和 4 年)	「山形大会概要集・記録集」郵送
1 月 31 日 (月)	投稿論文掲載者による掲載負担金納入 (厳守)
2 月 20 日 (日)	第 3 回運営委員会、第 4 回総務局会 (オンライン開催)
2 月 20 日 (日)	第 11 回造形芸術教育協議会 (オンライン)
3 月 31 日 (木)	第 2 回学会理事会、臨時総務局会 (オンライン開催、メール会議)
3 月 31 日 (木)	「学会誌・第 54 号」発行・郵送 * 上記のほか、運営委員会 (メール会議) 等を随時開催

令和 4(2022) 年度 事業計画

6 月 12 日 (日)	第 1 回運営委員会、第 1 回総務局会 (オンライン会議)
6 月 20 日 (月)	学会誌「論文投稿案内」郵送
6 月 28 日 (火)	「学会会報 No.40」発行・郵送・HP 掲載
6 月 28 日 (火)	「宮崎大会オンライン開催案内」郵送
7 月 1 日 (金)	「宮崎大会案内 (オンライン開催)」ホームページ開設、メール配信
8 月 1 日 (月)	学会誌・事前投稿登録締切
8 月 31 日 (水)	大学美術教育学会「宮崎大会」研究発表申込締切・発表概要原稿提出締切
9 月 5 日 (月)	「投稿論文」締切 (消印有効)
9 月 11 日 (日)	第 2 回運営委員会、総務局会 (オンライン会議)
9 月 14 日 (水)	令和 3 年度会計監査 (新野監事・河西監事)
9 月 16 日 (金)	大会前日諸会議：第 3 回総務局会、第 1 回大学美術教育学会理事会
9 月 17 日 (土) ～ 9 月 18 日 (日)	第 61 回大学美術教育学会「宮崎大会」 (オンライン開催)：学会開催式 (宮崎大学)、研究発表、講演会、学会総会、学会閉会式、大会開催大学引継ぎ (次期開催大学 - 香川大学)
10 月 16 日 (日)	第 12 回造形芸術教育協議会 (オンライン)
11 月 30 日 (水) まで	投稿論文の掲載可否の決定 (投稿論文の最終提出は可否決定後 4 週間以内)
12 月 5 日 (月) (令和 5 年)	「宮崎大会概要集・記録集」郵送
1 月 31 日 (火)	投稿論文掲載者による掲載負担金納入 (厳守)
3 月 1 日 (水)	第 3 回運営委員会、第 4 回総務局会 (オンライン開催)
3 月 11 日 (土)	第 13 回造形芸術教育協議会 (オンライン)
3 月 14 日 (火)	第 2 回学会理事会 (メール会議、オンライン開催)
3 月 31 日 (金)	「学会誌・第 55 号」発行・郵送 * 上記のほか、運営委員会 (メール会議) 等を随時開催

令和4（2022）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会 第61回 大学美術教育学会 宮崎大会報告

令和4年度日本教育大学協会全国美術部門協議会及び第61回大学美術教育学会宮崎大会を9月17日（土）・18日（日）の二日間の日程で開催いたしました。



本大会は、新型コロナウイルス感染症収束の兆しも見えない状況で、本部総務局との検討を重ねた結果、一昨年度と昨年度に続きオンライン開催となりました。また、当日は大型の台風が九州に接近する中でのスタートとなりました。

本大会は、現地での開催状況をライブ配信する形式とあらかじめ収録した研究発表等の内容をオンデマンドで配信するハイブリッド型のオンライン形式による大会と致しました。

17日の教大協全国美術部門開会式に続いて、「日本教育大学協会全国美術部門協議会」が開催されました。テーマは「美術教育と今日的教育思潮」。サブタイトルは「21世紀に求められる力量を美術教育者は如何に考えるか」で、新井浩副代表（福島大学）をコーディネーターとして九州地区5名の大学教員から発表がありました。

先ず新井副代表から基調説明がありました。1. テーマ設定の意図。2. 現在の国立大学法人が置かれた状況。3. 今日の様々な教育思想の流れ。4. これらの状況を視野に入れた上での美術教育の位置と意義。

続けて九州地区5名の大学教員から事例発表がありました。徳安和博（佐賀大学）氏からは、「俯瞰」することの意義が「俯瞰的『彫刻のみかた』」の実践から示されました。今日の多様化した彫刻表現をマトリックスの中に位置づけることで、全

体の拡がりの中での理解を学生に促した実践。さらにその俯瞰的見方は学生自身の置かれた状況の客観的理解を促し、いわゆる VUCA 時代を生き抜く子どもたちの資質・能力の育成にも貢献することを予感させる発表でした。

藤井康子（大分大学）氏からは、「つながる」、「つなげる」というキーワードが示され、美術のつなげる力による学びの創出の事例が提示されました。子どもたちの個々の学びが美術教育によって融合される、図工・美術科が学校全体のカリキュラムの関連を促す、大学での美術教育が様々な学問分野をつなぐ、等の様々な可能性を示した発表でした。

大野匠（宮崎大学）氏からは、専門分野の彫刻の視点から附属学校園との共同研究の取り組みが紹介されました。「つないで・つるして」という題材における「場の形成」、材料ではなく「素材」として向き合う際に生まれる対象との「対話」や「間合い」など、事物との真摯な対峙が対象と自己の可能性の発現を促す事例発表でした。



全国美術部門協議会現地参加者の様子

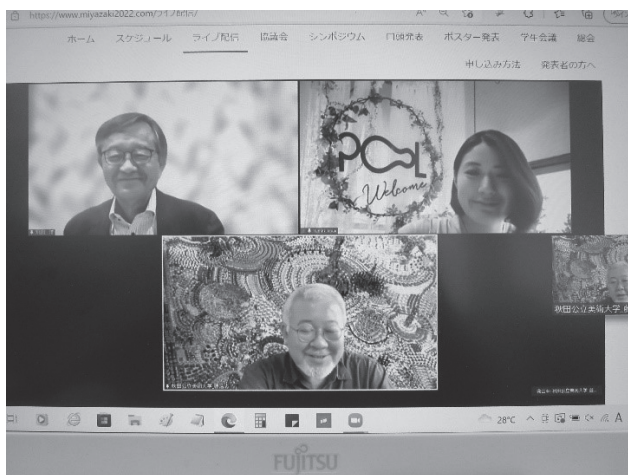
和田七洋（鹿児島大学）氏からは、VRによるアート（教育）の可能性が示されました。附属中学生による体験を紹介した動画では、3次元で描画が可能であるにもかかわらず平面的に描いてしまう点、アカデミック系の彫刻家による体験を紹介した動画では、VR内での多視点による創作活動の可能性が示されました。

ティトウス・スプリー（琉球大学）氏からは、Creative Learning Environment の概念が示されました。フリースクールにおけるアートプロジェクトを通じた環境の再発見やコロナ禍を経たからこそ実感される共同的体験の場づくり等が紹介されました。

これら 5 名の事例発表を受け、活発な協議が進み、今日的教育思潮を見据えた今後の展望の視座が示されました。

当日午後に予定されていた部門並びに学会の総会は、台風接近に伴う危険回避のため、急遽ライブ配信による協議を中止としました（総会での協議内容は、後日メール審議となりました）。

大学美術教育学会シンポジウムは、3 名の登壇者が遠隔からの参加で予定通り開催されました。シンポジウムのテーマは、「STEAM 教育とアート」で、登壇者に井上祐巳梨氏（STEAMJAPAN 代表理事）、飛田洋氏（元宮崎県教育委員会教育長）、藤浩志氏（秋田市文化創造館館長・秋田公立美術大学教授）をお迎えし、幸秀樹（宮崎大学）が司会・コーディネーターを務めました。石川千佳子副学長（宮崎大学）の挨拶の後、三氏による発表がありました。



シンポジウム登壇者（ライブ配信の画面）

井上氏は、日本と欧米の STEAM 教育の基盤の違いを押さえ、A（アートによる課題抽出）＋STEM（理数系の解決力）で「好きなことを社会とつなげる」意義を指摘しました。A（アート）の土壤があるアメリカやイギリスなどでの STEAM 教育の動向やインドでのダイバーシティ

社会における教育動向の紹介もありました。

飛田氏は、豊かな教育・行政経験から教育の「境界値」、感性と理性の結びつき、頂点ではなく広がりのある領域へアプローチする大切さを提言しました。また県教委教育長時代の教員養成課程縮小に対する意見書提出や特別支援学校における美術採用枠の設置、県立美術館長時代のアートを感じる人生・日常を生み出す取り組みなどが紹介されました。

藤氏は、手を動かす大切さ、あるものを探すではなく「ないからつくる」美術の意義、「コンタクト（接触）とコミュニケーション（対話）」など自身の作家経験から抽出・結晶化されたキーワードが提示されました。氏からは、美術大学は美術を教える学校か？、美術では食っていけないか？、など再考を促す反語的問いが示されました。

三氏の発表の後、相互の質問のやり取りも交え、作って終わりではなく、伝える経験の蓄積の意義、未来への視座、ゼロリスクが最大のリスクなどのキーワードが共有されました。

本大会における研究発表は、口頭発表 24 件、ポスター発表 11 件の申し込みがあり、大会 HP 上でオンデマンド配信されました。オンデマンド配信された研究発表に対しては、視聴者がコメントを残すことができ、さらに発表者からのレスポンスが繰り返されていました。対面には及ばないものの、オンデマンド配信の可能性も示されたのではないかと感じました。

また 18 日（日）午前には 6 名のライブ研究発表、学生会議が遠隔会議室システムで実施されました。ライブ発表では 1 発表につき 30 ～ 40 名の視聴参加者があり、質疑応答も実施できました。本大会はコロナ禍、台風下での開催となり、厳しい状況で運営側としても十分行き届かないのではないかと終始不安を抱える大会となりました。このような状況下でも大会が無事に終了できましたこと、参加者、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

（宮崎大学大学院教育学研究科 幸 秀樹）

令和5（2023）年度 日本教育大学協会全国美術部門協議会
第62回 大学美術教育学会 香川大会

大会テーマ「美術教育の未来を考える！」

- 企画・運営 香川大会実行委員会
○主 催 日本教育大学協会全国美術部門・大学美術教育学会
○共 催 全国大学造形美術教育教員養成協議会（全美協）
国立大学法人香川大学教育学部

1. 香川大会の概要

令和5年度日本教育大学協会 全国美術部門協議会、並びに第62回 大学美術教育学会「香川大会」を対面で開催いたします。口頭発表、ポスター展による研究発表、シンポジウムなどが開催されます。奮って御参加の程、心よりお待ち申し上げます。

香川大会（対面開催）
令和5年 9月23日（土）・24日（日）
香川大会専用ページ <https://www.kagawa2023.com/>

2. 会場

香川大学 教育学部 幸町キャンパス 〒760-8522 香川県高松市幸町 1-1

3. 参加方法

■参加費

会員・一般 [事前申込 4,000 円] [当日 5,000 円]
院生・学生 [事前申込 2,000 円] [当日 3,000 円]

4. 発表申込

■申し込み方法について

・大会専用ページより申し込みください。研究発表では口頭発表とポスター発表の両方の申込みはできません。

■申込日時

参加申込 7月3日（月）10：00 ～ 8月31日（木）24：00
発表申込 7月3日（月）10：00 ～ 8月21日（月）24：00

5. 日程・内容

- 9月22日（金）：大会前日の諸会議
■9月23日（土）9：00～：協議会・シンポジウム・口頭発表・情報交換会
■9月24日（日）9：00～：総会・口頭発表・ポスター発表

詳しくは大会専用ページ <https://www.kagawa2023.com/> を御覧ください。

お知らせ

会員情報（メールアドレス）の更新のお願い

経費削減とときめ細やかな会員サービスの実現のために、学会からの連絡の一部を可能な限り電子メールに移行しています。

会員の皆様には電子メールアドレスに変更等がありましたら、随時、e-naf システムより会員登録情報の更新をお願いします。

<更新方法>

- ①大学美術教育学会会員情報管理システム（e-naf）ログイン画面を開く

<https://e-naf.jp/UAESJ/member/login.php>

- ②「ログイン ID（会員番号）」と「パスワード」を入力（ID は封筒の宛名の右下に記載があります。今後とも必要となりますので必ずご自身で控えておいてください。パスワードを紛失した場合は、ログイン画面より再発行が可能です。）

- ③会員登録情報をクリック

- ④画面一番下の「修正」をクリック

- ⑤修正したら、確認画面→登録へと進む。

- ⑥登録変更のご連絡（自動配信メール）が届いたら変更完了

年会費の支払いに関するお願い

大学美術教育学会は、皆様の年会費により運営されています。年会費の支払いにご協力ください。

滞納されている方は、早めに納入してください。なお、払込取扱票の再発行はいたしかねます。未納額が不明な場合には、会員様ご自身で e-naf より会費納入状況をご確認いただけます（メールによるお問い合わせにも、従来通り対応致します）。また、領収書は払込の控えをもって代替させていただきますので、ご了承ください。

■振込先

口座番号：00980-6-203000

加入者名：大学美術教育学会

学会員の名簿について

大学美術教育学会の会員名簿については、パスワード付 PDF をホームページの会員情報に掲載しています。下記の方法で PDF をダウンロードし、別紙に記してあるパスワードを入力してご確認ください。なお、e-naf のパスワードとは異なりますのでご注意ください。

<会員名簿（PDF ファイル）のダウンロード>

- ①日本教育大学協会全国美術部門・大学美術学会のホームページを開く（<https://www.uaesj.com/>）

- ②次の順でメニュー等をクリックする。

「大学美術教育学会」→「会員情報」→「大学美術教育学会 会員情報名簿」

- ③ダウンロードしたら、パスワードを入力

問合せ先について

大学美術教育学会では、平成 26 年度以降、業務の一部をアウトソーシング（中西印刷株式会社に業務委託）しております。つきましては、会員管理・会費に関するお問い合わせは、大学美術教育学会事務支局（中西印刷内）へ、その他については、総務局へお問い合わせください。

<会員管理・会費関連に関するお問い合わせ>

大学美術教育学会事務支局

（中西印刷株式会社内）

Tel:075-415-3661

e-mail:uaesj@nacos.com

<総務局へのお問い合わせ>

総務局専用電子メールアドレス

e-mail:daibibumon@uaesj.com

【総務局広報担当】

村田 透（滋賀大学）

福井一真（愛媛大学）

松尾大介（上越教育大学）

高林未央（総務局事務員）

